



# しんじょうやまだより

平成 30 年 8 月 日発行

## 《看護部》



平成 30 年 8 月 9 日（木）「高校生 1 日看護体験」に、6 名の生徒さんが参加しました。

各病棟では、清拭、足浴、手浴など、指導看護師に見守られながら体験することができました。「熱くないですか？」「痒いところはないですか？」など、患者さんに声をかけながら上手にできていました。

外来業務の見学や、化学療法室では奥寺室長から「認定看護師」についてのお話も聞くことができ、看護師の資格を取ってからのキャリアを考える、良い機会にもなりました。

院内各所の皆様のご協力もあり、楽しく充実した看護体験になったようです。

ご協力いただいた患者の皆様、見守ってくれた、高村のり子さん、大石莉穂さん、工藤清生さん、どうもありがとうございました。



## 《医局》

### 学会・研究会への参加の意義

良い医療を行うため、学会や研究会に参加して最新の医療技術や情報に接するよう努めています。それよって自分たちが行っている医療を客観的に見直したり、今後の課題を整理してみたり、自身のスキルアップに努めています。それ以外にも学会会場では他施設の医師や専門の方々と意見を交わすことも出来ますので、論文などの書籍やインターネットでは味わうことが出来ない交流が出来る絶好の場でもあります。学会のプログラムをみて興味が湧き参加する人、自分たちが行っている臨床研究の成果や経験した事を発表するために参加する人、セミナーや講演を担当する人、参加する理由は皆それぞれ異なります。ベテランになると得意とする領域のセッションの司会や座長を依頼されることもあります。

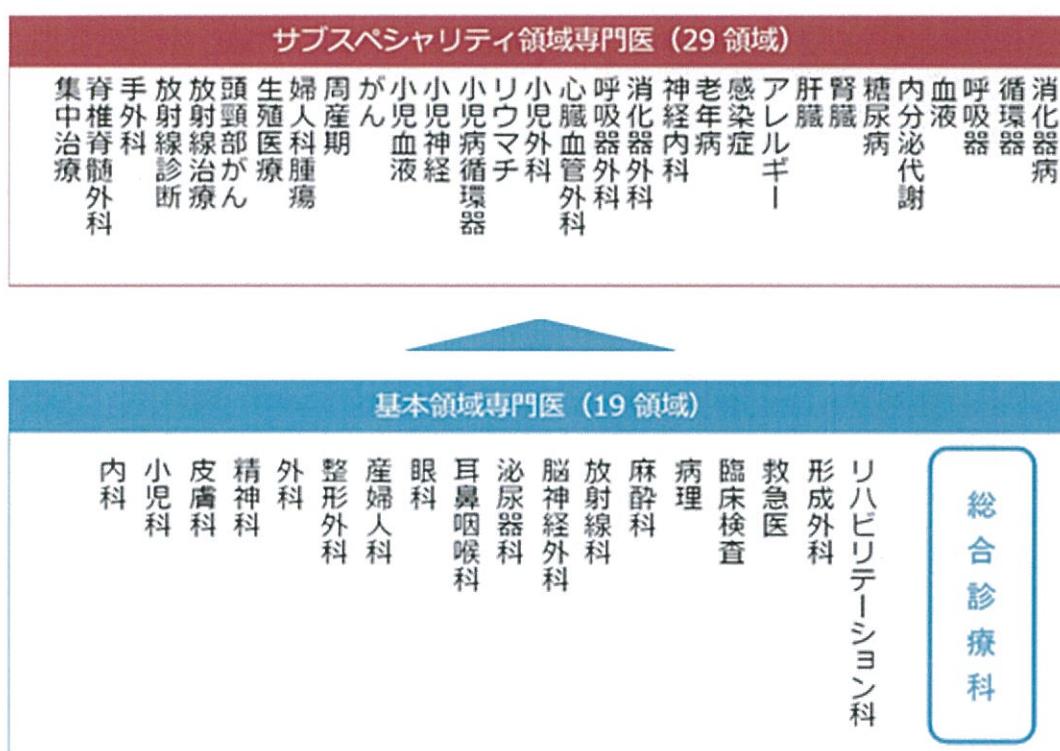


また、最近の話題としては、やはり専門医制度に対する個々の学会との関わりです。これまで各々の学会が独自の要件を定め、一定数の症例の経験、定められた学会への参加、学会発表や論文執筆、さらに学会が行うセミナーの受講、学会が主催する試験の合格、などを満たせば資格が与えられ、＊＊学会認定医あるいは専門医として広告できるというものでした。これも 2018 年からは医師国家試験を合格した後、初期研修を行い、次のステップでは専門医機構が定める 19 の学会（表参照）のうち 1 つの学会の専門医になることがほぼ義務づけた新専門医制度へと変わりました。学会の専門医申請や更新を行う条件の中に、その学会への参加が定められており、そのクレジットを得るために参加する場合もあります。

学会へ参加する理由は多様になりますが、自身を磨き、良い医療を提供したいという事が学会参加の根底にあります。

院長 森田隆幸

### 新たな専門医制度の基本設計



基本領域の中に 総合診療科が新設された



「第 44 回社会保障審議会医療部会資料 2-1」より